

①テーマ

熱田を味わう、リバーカフェによる観光街づくり提案

②アイデアのイメージ

【問題点】

- ①熱田区は「港町」「舟運の拠点」という歴史を持つ。
but→現在は堀川や運河は生活道路や放置空間となり、活用されていない
- ②白鳥公園や宮の渡しなど、整備された水辺空間はあるが使われていない
- ③若者や観光客にとっても、「川沿い＝散歩道」以上の印象がない
- ④熱田神宮は年間500～700万人の来訪者がありながら、その周辺の商店街はシャッター街化が進行している



夜には
提灯などでライトアップ
ナイトクルーズも



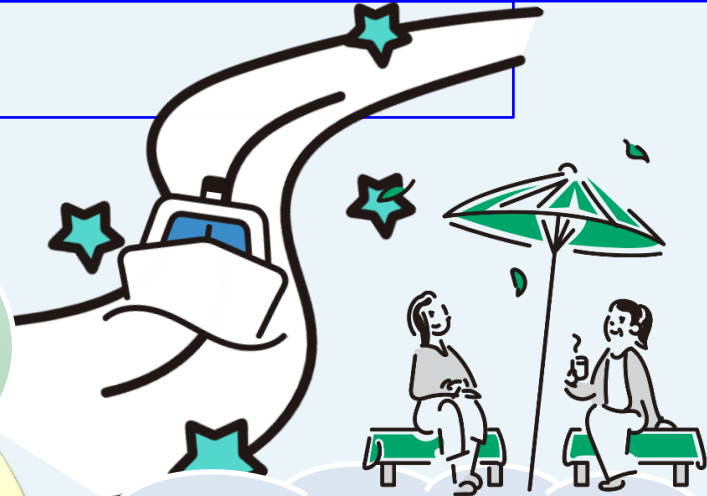
解決策

熱田リバーカフェ

リバークルーズで水上移動 学生主導の熱田リバーカフェ

- ・スタート地点：白鳥公園付近
- ・経由：宮の渡し公園（七里の渡し跡）
- ・ゴール地点：宮の渡し公園

桜クルーズや夜間ライトアップ、舟上ライブなど、季節に応じた多様なイベントを実施



地元の歴史と味を生かしたメニュー案

- ・宮の渡し舟盛りプレート
- ・熱田抹茶舟パフェ
- ・しぐれ煮ホットドッグ
- ・八丁味噌フロート
- ・きしめんあんみつパフェ

目的

歴史ある水辺を人が集まる場所に変える
熱田の「舟運文化」や「水の物語」を再発見・再発信する

【メリット】

- ・周辺の商店街の活性化
- ・観光客や若者の集客/インバウンド効果が見込める
- ・カフェで提供する食材を地元の食材にすることで地域とのつながりができる
- ・既存の設備を使用するため、初期費用があまりかからない

予想するターゲット層

- ・観光客（熱田神宮参拝者）
- ・地元の若者やファミリー層
- ・地域の高齢者の憩いの場
- ・名古屋市内の大学生

【メリット+α】

大学生が主体となって運営するため、学生たち自身が熱田区の良さを知ることができる。また、多くの人と触れ合うことで地元意識を生み出すことができる。

さらに、学生が主導して運営に関わることで、実践的な学びや地域交流の場にもなると考えられる。また、地元店舗との協力やクラウドファンディングなどを活用し、収益性や持続可能性にも配慮した運営体制が重要である。

リバーカフェを開くことで、熱田区の自然資源である堀川や宮の渡しなどの舟運文化を活かし、地域の魅力を再発見できる点が大きなメリットである。水上で過ごす非日常的な時間は観光客や若者の関心を引き、商店街への回遊や滞在時間の増加にもつながる。また、地元食材や歴史をテーマにしたメニュー・イベントを展開すれば、地域との連携が生まれ、にぎわい創出や空き店舗対策にも貢献できる。さらに、大学生が運営に関わることで、実践的な学びや地域交流の場にもなると考える。ただ、水上カフェ運営に関する許認可の取得が必要なこと。また悪天候時の代替案の検討が必要である。

提出者

経済

学部

担当

先生

学籍番号／氏名

①テーマ

「あつたCO^{こせん}銭」でつながる人と人 ～地域内通貨で「誰も取り残さない」熱田へ～

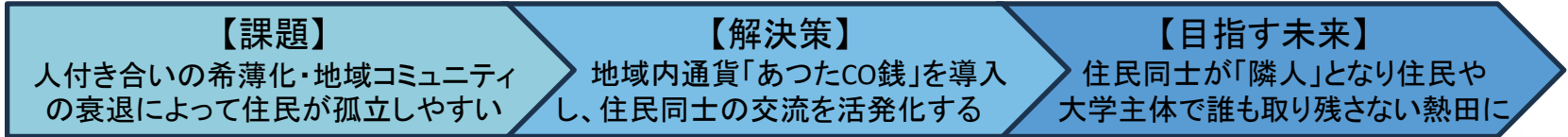
②アイデアのイメージ

P **熱田区公式LINE**

相談チャット
区内情報
あつたCO銭

<参考データ>

- ・令和6年度熱田区区民アンケート
「人と人とのつながりについて」以前から薄く・薄れてきていると思う、合わせて82.7%
- ・NTTドコモモバイル社会研究所による調査(2025年1月実施)
→60代の約88%、70代の約72%、80代の約47%以上がLINEを利用
- ・PIAZZAによる「子育てに関するアンケート」(2024年5月)
孤独を感じるときについては、男女ともに「子どもと二人きりでいる」ときが最も多く、女性は59.4%、男性は47.5%だった。



①空きコマ家事代行
NGU生が空きコマなどに住民宅を訪問して家事を手伝う。
→ **住民の孤立防止**に！
(例 1時間5あつたCO銭)



②公式LINEで情報をチェック
配信される**区内の情報を閲覧**することで、1日ごとにあつたCO銭をゲットすることができる。
→区の情報を積極的に知るきっかけになる。

③NGU内で割引
貯めたあつたCO銭を使って、食堂やマイルポストで**割引を受ける**ができる。学生だけでなく、地域住民が利用できる。

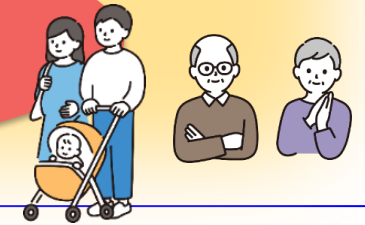
④井戸端会議キャンペーン
住民同士の**会話を増やす**ためには、まず挨拶から！ご近所付き合いの強化につながる。
→お互いのQRコードを読み取って、あつたCO銭をゲット。



⑤フリーマーケットで買い物
NGUが**場所を貸し出し**、フリーマーケットを開催する。子ども服などをおさがりや日用品、個人のアート作品などを販売・購入することができる。(支払いはあつたCO銭を使用)



⑥町内会の活動に参加
町内会の活動に参加することで、あつたCO銭をゲット！家族みんなで地域に活動への参加を促進する。
→ **町内会の維持・活性化**



「あつたCO^{こせん}銭」で人と人とのつながりを！

③アイデアの特徴・メリット

熱田区に暮らしていると、大学の周囲に立ち並ぶマンション群が目に入る。その一室一室に、子育てに奮闘している方、孤独を感じながら日々を過ごしている方がいるかもしれない—そんな想像から、今回の提案は生まれた。実際、区民アンケートでは、「人とのつながりの希薄化」が課題として浮き彫りになった。それを解決するのが「あつたCO銭」だ。「あつたCO銭」は、地域の活動に参加したり、誰かを助けたり、学生や住民が交流したりしたときに配布される、「ありがとう」のかたちのようなものだ。この通貨の特徴は、「孤立を見つけにくい」という社会課題に対して、学生や住民が積極的に外へ出て、地域に関わっていくことを促す点にある。上記以外にも将来的には、地域の飲食店・小売店との連携や健康診断、公民館利用の際など、まちのにぎわいの中にCO銭を組み込んでいきたいと考えている。お金では買えない“つながり”の価値を可視化するこの仕組みが、熱田区をもっとあたたかく、もっと暮らしやすくする未来への一歩となるはずだ。地域内通貨「あつたCO銭」は、熱田に集う人々がお互いに“隣人”となり、誰も取り残さない熱田区を実現する。

提出者	現代社会 学部	担当	先生	学籍番号/氏名
-----	---------	----	----	---------

①テーマ

震災から高齢者を守る！大学生訪問型避難訓練

②アイデアのイメージ

課題



熱田区は**高齢者数**が多い
震災時の**津波**
家屋の**老朽化**

南海トラフ地震は30年以内に80%で発生する。
また熱田区は津波のリスクも高い

問題点



震災時の高齢者の避難の遅れによる**死**

東日本大震災・阪神淡路大震災での死亡者の**9割**以上は高齢者

解決策



大学生が家庭訪問お宅の危険を探ります

対策次第で死者数を**激減**させられるのでは

訪問避難訓練

大学生が高齢者のお宅に訪問し、震災時に避難の妨げになるもの（布団の周りに危ないものが無いか、倒れそうな棚が無いかなど）を探し、対策（布団の周りのものをどかす、棚の固定など）を行います。それから実際に歩きながら避難所までの避難経路を確認します。一人で避難できないような足腰が悪い方などには近所の方などとの避難の協力が必要であり、その架け橋にもなります。これらを行うことで高齢者は迅速な避難が可能となり震災時の死亡者を減らすことができます。

③アイデアの特徴・メリット

従来の避難訓練は避難経路、避難場所の確認をするものがほとんどです。しかしこれには住居内の危険を対策できていません。訪問避難訓練では家に訪問し住居内の危険を探すため住居内の対策ができるという特徴があります。もちろん避難場所への経路の確認も行うため地震発生から避難完了までの安全を確認できます。さらに大学生が行うことで、だれがやるのかという問題も解決されます。さらに大学生と地域住民との関わりも生まれ、地域活性化に繋がると考えます。もちろん一番のメリットは震災時の死傷者数の減少です。



提出者

現代社会

学部

担当

先生

学籍番号／氏名